オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(18)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(18)－

１．始めに

前報(17)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-12 と ThorensTD124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、アンサンブルの曲です。

harmonica mundi KUX-3105-H
モーツアルト　ディヴェルティメント変ホ長調
コレギウムアウレウム合奏団

３．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

harmonica mundi のドイツ盤ということで、TELDEC、正相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

LINN LP-12 の再生では、古楽アンサンブルらしい、落ち着いたオーソドックスな演奏です。

ThorensTD124 の再生では、古楽アンサンブルらしい演奏ですが、LINN LP-12 より、積極的な表現の再生です。

前報(17)と同じ harmonica mundi レーベルのコレギウムアウレウム合奏団の演奏ですが、かなり音質に違いがあり、カッティングの違いを反映しているようです。

４．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入および ThorenTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、LINN LP-12 と ThorensTD124 ともに古楽アンサンブルらしい演奏ですが、LINN LP-12

と ThorensTD124 の表情に違いがあり、かつ、前報(17)と同じ harmonica mundi レーベルのコレギウムアウレウム合奏団の演奏ですが、カッティングの違いを反映していることも分かります。

以上